

『こうちょうしつから こんにちは』

平成26年9月17日  
青森市立菟町小学校  
校長 木村文江

駒ヶ岳です！

大沼にてカヌー体験

【それぞれに漕いでいた2艘のカヌーが一緒になったところですが、ちょうど宝船が2つ並んでいるように見えます。】

6年生は、2学期始業式の翌日〔8月25日(火)〕から、大沼・函館方面へ修学旅行に出かけてきました。実り多いよい修学旅行になるようにと、子どもたちは、この日に向けて1学期のうちから準備を重ねてきていました。担任の岡山先生は、子どもたちが様々な体験をできるようにと、また、費用をなるべく抑えようと、旅のメニューをあれこれと昨年度までのものを参考に何度も何度も考え直していました。添乗員さんも、子どもたちが安全に豊かな経験がたくさんできるようにと尽力してくださいました。さらに、行く先々で出迎えてくださった函館の皆様方にも本当にお世話になってきました。

修学旅行が2学期始業式の翌日からとあって、保護者の皆様も準備等々慌しかったのではないのでしょうか。お世話になりました。ここでは、ほんの一部ですが、修学旅行の様子をお伝えいたします。

### 【旅の始まりは、青森駅前公園】

修学旅行当日、保護者の皆様には集合場所の駅前公園まで子どもたちを送り届けていただきました。そして、お母さんやお父さん方は、そのまま出発式に臨む子どもたちの姿を見守ってくださいました。お仕事や用事でお忙しいところ、本当にありがとうございました。「元気に帰って来て。」という言葉を抱き、いざ出発！

### 【ちょっとした時間やスペースを見つけ、旅先から絵葉書を】

スーパー白鳥に乗車後、すぐに、菟町小学校の後輩たちや家族へ絵葉書を書き始めた6年生。向かい合って座ったので、テーブルもなかったのですが、座席のアームや窓枠、膝等、わずかに平らなスペースを上手く利用しながら書いていました。車窓から見える景色を織り込みながら鉛筆を走らせます。電車に乗りながらも、ちょっとした時間を見つけて、日ごろお世話になっている身近な方々へ文章をしたためるのもよいものですね。

### 【命との出会い：何と愛おしく、何と尊いことか】

木古内の駅から、バスに乗り込みます。行き先は、牧場。乗馬体験です。白く若い大きな馬(人間で言うと20歳くらいだそうです)と栗毛の年齢を重ねた馬(人間で言うと80歳を越えているとか。足腰が弱らないように“お仕事”をさせているそうです)に乗せていただきました。直接、馬にも触



らせていただきましたが、乗っても触れても馬の息遣いや肌のぬくもりが伝わってきます。また、この後、アイスクリーム作りの体験場所では、ほんの15分ほど前に生まれたばかりというまだふるふると震えながらやっと立ち上がっている2匹の子ヤギたちに偶然出会いました。命の尊さと大切さを改めて考えさせられました。

**【とにかくやってみる！そして、アドバイスを受け、ぐんぐん上達！】**

国定公園の大沼で、岡山先生を含めて2つのチームに分かれ、カヌーに乗り込んだ6年生。美しい駒ヶ岳に見つめられて、大きな沼に漕ぎ出していきました。保健室の工藤先生と私は、2艘のカヌーをしばし見送った後、写真撮影等のためモーター付きのボートへ乗り込みます。そうしている間に、あら〜？ほぼ同時に漕ぎ出したはずなのに、2艘の間には、見る見る差がついていきます。ボートを操縦してくださっていたインストラクターの方が、「あっちの方(遅いカヌーの方)、みんな、(漕ぐのが)ばらばらでしょう。」と話しかけてきました。そして、速度を上げ、遅いほうのカヌーぎりぎりまで近づいて、大きな波で舟を揺らします。それでなくても、ぎこちない漕ぎ方のカヌーをこんなに揺らして大丈夫なのかしらと、一瞬ひやり！でも、もちろん、お考えがあつてのこと。子どもたちの気持ち、ハッと切り替わり、インストラクターさんを見ます。「どうして、差がつくかわかるか？漕ぎ方なんだよ！」と。そして、その漕ぎ方を2つ指導してくださいました。1つ目は、オールを大きく動かし水の中で長く漕ぐこと、2つ目は、みんなで(心を)合わせることに「チームワークなんだよ！」と。そのアドバイスを聞いた後は、写真のとおりです。ずいぶん漕ぎ方が違うものです。まずは、自分でやってみる。ぎこちなくても、失敗してもいいのです。ありがたいことに、本校の6年生は、人の言葉に耳を傾けることのできる素直な心と受けたアドバイスを生かす力を持っています。この後は、ぐんぐん速度を上げて、前を行くカヌーに近づいていきました。「明日は満杯なんです、今日は菫町小学校さんだけなんです。」ということで、たっぷりと丁寧にカヌー体験をさせていただきました。



アドバイス前



アドバイス後



材料が飛び出さないよう、協力して袋のジッパーを閉めます

**【まさに職人技：6年生の持ち味がより光ったアイスクリーム作り】**

ジッパー付きの袋にアイスクリームの材料を全て入れ終わると、「容器に氷を敷き詰めて！」と係りの方の声が。そこで、普通なら、ザアッと氷を入れるところですが、この子たちは、容器の底に向きを揃えながら直方体の氷をきれいに並べていきました。空いているところには、丁度入るような大きさの氷を選んで隙間無く、しかも、平らに敷き詰めます。ですから、出来上がったアイスクリームも、袋に入っているのに驚くほどきれいな形です。また、各チームのメンバーが交代で立ち上がりながら一生懸命に容器を振ったため、本当にむらなくしっかりと固まっています。子どもたちの『思い出集』の言葉によれば、「アイスクリームが、かちんこちんに固まった。」ということでした。丁寧に物事に取り組んでいくことができる子どもたちです。物づくり職人にも向いているのかも知れませんね。味もよかったです！売られているアイスクリームみたいでした！



氷と材料の入った容器を交代で振ります

もっとお伝えしたいことがたくさんあったのですが、第1日目の途中で紙面が尽きてしまいました。先生方の携帯電話の発・着信履歴が20回以上になった自主見学、布団の片付け、夕食のジンギスカン、お小遣い欄への記入、朝市売り子体験、市電の乗り心地、函館山からの夜景、班長会議から急きょ変わった全員会議、電車の中でやったトランプ等々、そのときのエピソードは山のように！実に多くの経験を、友だちや周りの人々の優しさに助けられた2泊3日の有意義な旅となりました。



朝市売り子体験



自主見学：トンボ玉作り



添乗員さん

お小遣い欄へ記入



元気に帰途へ！